

ホ。ホ。君の 浅草散歩



はじめに

ポポ君・・を月刊「浅草」誌に連載をさせて頂いていつの間にもやうやう百回を越え（今、百六十九回）ました。

以前より「浅草」について色々かいてみたいと思つてはいたのですが、まさかこんなに長かかせて頂く事になるとは思つてもみませんでした。

まだ散歩の途中ではありますが、色々とお世話になりました皆様へのお礼を込め、本にしてみること致しました。

とりあえず目次だけでも見て頂ければ幸いです。

平成十一年一月一日 記

ポポ君の浅草散歩目次

○ 1	裸のつき合いの町・浅草の銭湯……………	11
○ 2	おいらんショー・吉原松葉屋さん……………	13
○ 3	今戸焼・白井さん……………	15
4	ロック座会館オープン……………	
○ 5	浅草笑友会……………	17
6	東北・上越新幹線上野駅開業……………	
○ 7	桜橋開通……………	19
○ 8	酒処・沢正……………	21
○ 9	シミキンを偲ぶ映画会……………	23
○ 10	三館共通……………	25
○ 11	勘亭流……………	27
12	浅草ビューホテルオープン……………	
○ 13	祭りの町……………	29
○ 14	春日部の羽子板職人さん……………	31
○ 15	浅草司天台……………	33
○ 16	はなし塚……………	35
○ 17	エノケン追悼記念映画祭……………	37
○ 18	飛不動……………	39
○ 19	花やしき……………	41
○ 20	仁丹塔物語……………	43
○ 21	雷ゴロゴロ会館オープン……………	45
○ 22	江戸風鈴……………	47
○ 23	日本で初めての地下鉄・浅草駅……………	49
○ 24	ROXオープン……………	
25	猿若三座……………	
○ 26	銭塚地蔵……………	51
27	正月の町……………	
28	浅草かっぱれ道場(桜川びん助さん)……………	
○ 29	田谷力三さん 桜橋の魚……………	53
30	かっぱの町……………	
31	ハトの町 その一……………	
32	ハトの町 その二……………	
○ 33	東流二弦琴……………	55
○ 34	隅田川諸白……………	57
○ 35	玩具資料館……………	59
36	山口屋跡……………	
○ 37	浅草名画鑑賞会……………	61
38	台東区立伝統工芸展示会……………	
39	八百善……………	
○ 40	浅草文化観光センター……………	63
○ 41	浅草見番……………	65
42	浅草観音温泉……………	

○ 43	下町唐座……………	67
○ 44	かつぱの台ちゃん……………	69
45	かつぱの手のミイラ……………	
46	添田啞蟬坊……………	
47	異人たちとの夏……………	
○ 48	伊豆の長八……………	73
○ 49	浅草奥山風景……………	75
50	浅草みゆーじあむ……………	
○ 51	太鼓館……………	77
52	面白くてぬぐい……………	
○ 53	ついにかつぱの手を見た……………	79
○ 54	浅草芸能大賞(渥美清さん)……………	81
○ 55	京伝机塚……………	83
○ 56	花川戸公園……………	85
57	七月西のマップ……………	
58	夏バテにうなぎ(平賀源内)……………	
○ 59	提灯・恩田さん……………	87
○ 61	かつぱ橋道具まつり……………	89
61	アサヒビールタワーなど……………	
○ 61	松劇団……………	91
62	初夢の町……………	
○ 63	富士山のあった町……………	93

○ 64	柳橋船宿・小松屋さん……………	99
65	駄菓子屋・ハトヤさん……………	
○ 66	浅草バーボンストリート・ 立原千穂さん……………	105
67	カラクリ時計……………	
68	雷おこしのアイスクリーム……………	
○ 69	宗吾殿……………	109
○ 70	地球上の朝がくる……………	111
71	巨大な御仏足……………	
○ 72	地口行灯……………	113
○ 73	映画弁士塚と須田貞明……………	115
74	福助は実在の人……………	
○ 75	焼け残った電信柱……………	117
○ 76	ずぼんぼ……………	119
○ 77	可楽まつり……………	121
78	おたぬき様……………	
79	はんじ絵……………	
80	十二階しりとり……………	
○ 81	けいろくスナック……………	125
○ 82	豆子とんぼ劇団……………	129
○ 83	林家三平復活ビデオ……………	129
○ 84	さよなら三館……………	131

○ 85	猿之助横丁	133
○ 86	カモメのいる町	135
○ 87	東武線 浅草雷門駅	137
○ 88	二尊仏	141
89	高級屋形船・みやこどり	
○ 90	浅草文庫第一回講演会	143
91	槐(えんじゅ)の木	
92	ポポ君日記より	
93	浅草面白グッツ	
○ 94	黙阿弥(もくあみ)の町	147
95	浅草文庫とTEPCOコミュニティ ギャラリー	
○ 96	精華小コミュニティまつり	151
○ 97	熊谷稻荷御眷属大祭	153
○ 98	鮎に恋した男	157
99	下町戦後展で面白いものを見た	
○ 100	相澤忠洋さん その1	161
101	〃 その2	
○ 102	廻れば大門 見返り豆腐	163
103	相澤忠洋さん その3	
104	下町七夕まつり	
○ 105	さよなら オレンジ地下鉄	169

106	イベントの秋	
107	一葉の町・竜泉	
108	浅草―上野 ぶらぶら歩いて15分	
○ 109	いろいろの人たち	175
110	浅香光代公演を見に行ったときの話	
○ 111	春近し	177
○ 112	地口行灯 その2	181
○ 113	市川右太衛門展	187
114	相澤忠洋さん その4	
○ 115	相撲の町(御蔵前書房) (横綱・朝夕)	197
116	昔のマンガがすみません	
117	ポポ君日記2	
118	花やしき その2	
119	浅草寺寺宝展	
120	瓜生岩子さんって?	
121	摩利支天(エト・猪に因んだ神様)	
122	エノケンと仲間たちの碑と欽ちゃん劇団	
123	ジャズの浅草	
124	嫌な事件よなくなれ	
○ 125	地口行灯 その3	203
126	都市博と浅草	

- 127 花火
- 128 がんばれ坂野比呂志大道芸塾
- 129 浅草紙……………205
- 130 桜井敏雄さん……………209
- 131 ポポ君 平成7年秋のびっくり日記
- 132 たぬきサミット
- 133 ねずみと言えばねずみ小僧
- 134 さよならサトウ・ハチロー記念館……………211
- 135 がんばってオフィスSTAS……………215
- 136 桜橋花まつり
- 137 待ってました！ 今年の三社祭
- 138 橋場の由来
- 139 久しぶりにポポ君日記より
- 140 浅草がんばる会
- 141 さよなら寅さん その一……………217
- 142 今村先生の絵のあるお店……………221
- 143 シミキンさんもびっくり(朝霧鏡子さん)
- 144 風流物売りの声(みす乃家南玉さん)
- 145 松林モトキ大相撲錦絵展
- 146 地口行灯 その4
- 147 浅草交響楽(逗子とんぼさん)……………223
- 148 かつば橋通り どぜうの
- 149 飯田屋さん……………227
- 150 六芸神の街
- 151 下町七夕まつり
- 152 笑々ごめんなさい？
- 153 屋代久友さん
- 153 来々軒の話 その1……………231
- 154 〃 その2
- 155 浅草時代劇学園近々開講
- 156 かつばの町
- 157 笑いの町・相撲の町
- 158 久しぶりにはんじ絵……………233
- 159 桜橋花まつり
- 160 さよなら松葉屋おいらんショー
- 161 三題噺に挑戦……………237
- 162 鬼平の集いと池波正太郎先生について
- 163 だじゃれマンガ
- 164 長岡忠次郎？
- 165 イツカク書店……………239
- 166 がんばれ！ お笑い21世紀
- 167 がんばれ！ 劇団にんげん座……………241
- 168 さよならさよなら1998年

この内、○印を付けたものをこの本に記載しました。

そして、この間のところどころに写真コーナー、食へある記のページ少々、浅草面白まつぶより少々、浅草文庫講演会からも少し？ 載せさせて頂く事になりました。

○なお、写真コーナーは……………70・106・166・194・228

○食へある記より

「鳥越」……………94

「柳ぼし」……………100

○浅草面白まつぶより

「浅草落語まつぶ」……………122

「小林清親まつぶ」……………138

○浅草文庫講演会からは

① かつば寺、御隠居、久我義勇師のお話よりかつば寺とかつば橋……………144

② びんざさら保存会会長、斉藤栄助氏のお話しよりは、「びんざさら舞」……………148

③ 浅草寺、清水谷孝尚師のお話しからは、「浅草寺史話」その一……………154

④ 文教大学教授、横田貢先生の「べらんめえ言葉あれこれ」……………158

⑤ 弁天山、ふじや御主人、川上桂司氏のお話しより、「山東京伝と江戸てぬぐい」のお話し、その二……………164

⑥ 早稲田大学演劇博物館、元、事務長・絹川正巳先生の、「花柳章太郎と浅草界隈」……………170

⑦ 宮本卯之助商店社長、宮本芳宏氏の、「神輿あれこれ」その二……………192

⑧ 矢崎稻荷神社、高島邦夫宮司のお話しより「矢先稻荷神社と新堀川」……………178

⑨ 作家、阿木翁助先生の、「久保田万太郎と浅草」その一……………182

⑩ 鎧屋紳士服店御主人、松本敬三氏のお話しより、「並木倶楽部に来た芸人たち」その一……………184

⑪ 鷲神社、河野英男宮司のお話しより、「お酉さま」について、その一……………188

⑫ 日本のこぎり音楽協会会長、都家歌六師匠のお話しより、「音」その二……………190

⑬ 作家、吉村平吉先生のお話しより、……………190

「浅草軽演劇の黄金時代」その二	192
⑭小俣貫一氏のお話しより、「浅草興行界ウラ話」その一	198
⑮上智大学名誉教授、村松定孝先生のお話しより、「泉鏡花と浅草」その三	200
⑯国学院大学文学部講師、小林高寿先生のお話しから、「浅草紅団」	206
⑰サトウハチローさんってこんな人!	212
⑱今村恒美先生との思い出	218
⑲シミキン夫人、朝霧鏡子さんと、シミキンさんの弟子の、逗子とんぼさんによる、「喜劇王、シミキンさんについて」	226
⑳太神楽、みす乃家南玉師によります今村先生原画展での、「江戸暦渡世の絵姿」について	236

以上を載せさせて頂きました（なお、⑰と⑱は、どうしてもかかかないと思うことあり、かかせて頂いたものです）。

浅草
ホホ君の
散歩



原えつお

フロログ

「はじめに」を書いた後にフロログならぬフロ（風呂）ログと記すのもチトお恥ずかしいところですが、銭湯の帰りにでも一寸（ちよっと）一杯てな感じで読んで頂ければ嬉しいですよ（それにしてもこんな事なくなりましたネ）。

さて、当時、勤め先の先輩で武政さんと言う人がおりました（今もお付き合い願っておりますが）、この人が無声映画の会に関係しております、その映画が、リアルタイムに上映された頃（つまり、浅草六区興行街が華やかだった頃です）の、六区と現在（昭和59年でした）の六区の二枚のイラストマップを描くよう頼まれました（その会へ行ってみますと、映画は「大河内伝次郎の丹下左膳・百万両の壺」と言うもので、講師は丹野さんという人でした（この人とも後日、よくお会いする様になるのですから不思議なものです）。

さてお話しは、少し戻りまして：そのイラストマップを描く為に、色々調べなくてはならず、合羽橋通り東電の二階にあった（今は、雷門ハス前に仮移転中の）浅草文庫へ行き、その小木曾さんより月刊「浅草」編集長の織田さんに当地（浅草文庫）にて会う、という事にして頂きました（実は織田さんとはその六、七年前にお会いした事があり久しぶりでした）。

織田さんより漫画を依頼されたのですが、「今まで描いていた人が四コマだったからそうでないのにして下さい」と言われ、何とか面喰いながら捻り出したのが左ページです。この件数も料金も、当時（昭和59年）とは、随分変わりました（やめてしまった所もあれば、サウナや露天風呂を造ったりしてがんばっている所もあります）それは、浅草の町全体についても言えるのだと思います。

木々君 (浅草) 散歩



① 裸のつき合いの町 原えつあ

裸のつき合い浅草には
まだまだ泥山の銭湯が
あります

旭湯 (浅草5丁目)

曙湯 (浅草4丁目)

ニューいびみ湯 (浅草4丁目)

北松の湯 (浅草3丁目)

ひさご湯 (浅草2丁目)

トコロとあひが
まじめば
トコロ
です
3000円

浅草観音温泉 (入湯料400円)

大黒湯 (花川戸1丁目)

寿湯 (寿3丁目)

カラス湯 (西浅草3丁目)

蛇骨湯 (浅草1丁目) (入湯料茶色)

さすか

42 浅草には
軒あるんだって

大きは
湯舟で
気持ちいいね

ケケの湯 (元浅草3丁目)

化粧湯 (蔵前4丁目)

ケケの湯 (寿3丁目)

料金

金魚湯 (蔵前4丁目) 大人(12才以上) 250. 中人(6~12才満) 120. 小人 60円

昭和59年11月号

さて：前ページの続きです。

小木曾さんにはその後も浅草の事など色々教えて頂く事になりまして、この本にも度々御登場頂く事になると思います。

さてく実はい！ 織田編集長より頼まりましたのは、これだけではなく、

「浅草への道案内の図」と

「浅草のれん会の図」の二つも頼まりました。特に、のれん会の図はのれん会加盟のお店が66軒あり、前ページの浅草のお風呂屋さんの数、42軒と合わせ、108軒のお店のスケッチをする事となり（まるで除夜の鐘の数と同じですね）、早くもこれより十余年の悪戦苦闘（二寸大げさですね）のスタートとなったのでした。

「ボポ君」の二作目ですが：歌手の人も二作目には苦労するそうですが、私も一寸悩みましたが、メ切があるので、そう悩んでいる時間がありません（思えば、このメ切が有るので何とかかんとか形にしなくてはならないので、ここまでかけたのです）。

それはともかく、浅草と言えば江戸、江戸の香の残っている所と言えば、（吉原）！ と言う事で「吉原松葉屋」さんの「花魁おいらんショー」を取材させて頂く事にしまして御主人にお願いすると、快く見せてくれました。

ショーは40分で行き替えて、日本人観光客向けのほか外国人観光客向けのものもあり（この夜はその二回とも見せて頂きました。特に外国の観光客の皆さんの歓声がものすごくて圧倒されました）浅草は、外国の人たちも特に嬉しい町なのです。

花魁ショーは素晴らしくて、今後未来永劫続けて頂きたかったです。残念ながら平成十年の二月に、その幕を閉じました。

松葉屋さんの庭にあった久保田万太郎の句碑「この里におぼろふたび濃きならむ」も、淋しい思いをしているに違いないと思うのです。残念です。

ポポ君 (うちもと) 浅草 散歩



②江戸がきている町(夜) 原えつお



前ページにて一寸偉そうに「久保田万太郎の碑」の事など書きましたが、恥ずかしながらこの頃、久保田万太郎という人がどうゆう人か全く知らず、ただ遠い人の様に思えました。それが後日、「浅草に住みたい」という理由で麻布から我家のそば（西浅草）へ引っ越して来られた俳優・北見治一はるみちさん（北見さんは、元・文学座の俳優で後日誰かに聞いた話では、文学座の三奇人の一人と言われていたそうです）より小説の原稿（それも今、書いたばかりの）を渡され、何と感想文の提出を求められ、しかも下手な感想だと怒られるのです。その小説は、「回想の文学座」と言う本で、文学座の創立者のお一人がその久保田万太郎さんにして、氏の事を少し知りました（北見さんの話を書くともっと長くなりそうなので今はこれまでと致します）。

さて、それから後日、「浅草文庫講演会」（これについても、改めて書かせて頂きます）にて阿木翁助先生より「久保田万太郎と浅草」と言うテーマで、御講演して頂きしつかり教えて頂き、久保田万太郎と言う人がどうゆう人か知った（この事も、後でかけると思いますが）次第です。

さて、「江戸が生きている町」の次は「職人の町」と言う言葉が脳裏に浮かびました。色々な職人さんがいます。その第一回は素朴な焼き物、江戸の匂においのする焼き物「今戸焼」について白井さんの工房におじゃまさせて頂く事にしました。

丁度、あくる年が丑年で、対岸の牛嶋神社用の牛を作っておられるところでしたが、快く白井さんは、左ページの様な色々な事を教えてくれました。この他にも待乳山聖天の中着（きんちゃく）の貯金箱やかっぱ寺の波乗り河童大明神も白井さんの作なのだそうでした。今戸焼が欲しい人はリバーサイド体育館のすぐ前ですから、皆さん行ってみると良いですよ。

土・土・君(浅草)散歩(福)

③ 職人の町 原 えつお

「今戸火売」 ★ 桜橋ぎわ体育館前 今戸火売は
唯一軒残る 白井さんにおじやました

きつねが多いのは
系荷神社が多かったからです

子守きつね

てっぽうきつね

口入れ
きつね
(玉姫神社のお守り)

ひな人形

月見うさぎ
(土廓のお守り)

12年に1度の
牛島神社の牛

土をこね回す
機械

蚊やリぶたも
昭和初期
今戸の発明です

今年のエトの
牛や縁起まの
の製作で
大変でした

現在お
岐阜の土を
使用

型に土が
入ばりつか
なくするための
粉の入った
袋

型に土を
つめてい
るところ

儀ねずみ
(豊作のお守り)

見学
10時から5時
電話
(3872) 5277

昭和60年1月号

国際劇場がなくなり、浅草の町がガツカリしている頃より、この連載は始まったのですが、この頃、もう一つなくなったものがありました。…

「松竹演芸場」です。デン助さんはもちろん見ました。私の一番のお気に入り、早野凡平さんです。わかつていながら何回も笑われました。そのほか、ボン・サイトさん（この人の曲弾きにはびっくり）、はたのぼるさん（野菜で名演奏）、福岡詩二さんの壊れるバイオリン、などが特にお目当てでした。

その「松竹演芸場」の残党の人を集めて「笑友会」という会が発足したと新聞で見まして嬉しくなり、早速その会長の木村さんにTELし、確か、鳥越神社のそばだったと思いますが、御自宅へおじゃまし色々なお話しをお聞きしました（この時以前、私は「松竹演芸場」の絵を描いた事があり、その50号の絵を私が持っているより、木村さんのような人に持つていてもらった方が役に立つかも知れないなと思いつてももらいました。二階の右上の席に有名な！乞食のキヨシさんがいて、舞台の上ではピンボケトリオさんが、大熱演しているところの画です）。

木村さんはその後お亡くなりになったそうですが、あの絵はどこへ行っただしょう？。

さて、木村さんより菊水通りの「赤提灯」さんに事務所があるからと言われ（何だ町内会ではないですか）早速おじゃまし、御主人の町田さんより、左の様なメンバーがいることをお聞きしました。後年、池之端にある「赤提灯」さんの看板を描かせて頂く事になるとは、この時全く予想もしない事でした（上野池之端に行ったら寄って見て下さい）。

後日、笑友会の会合に誘われた事があり（宴会でした）、Wけんじの宮城けんじさん（この人は小学校の先輩です）を見ました。又、丁度お隣に座られたシヨパン猪狩さんが「ひょうたん池がなくなつた時、六区は、もう終りかと思った」と話され、印象的でした。

ホ・ホ・君 (浅草) 散歩



⑤ 笑いの街

原えつお

浅草笑友会
 大衆演芸の灯を消すほど
 覚悟して丁度1年
 会員は80人
 一般会員は120~130人
 居ます

木村朝子 会長
 小野栄一
 坂野比呂志

会員は喜劇人、映画人、
 舞台人など
 多士多才です

一般私セルフ
 会会会モ
 員員員
 として
 ました

★一般会員
 年会1万円

◎会報のお届け ◎会員との親睦会
 ◎自主公演の無料招待

浅草竹天友会
 仁丹塔の助
 赤提灯
 天地劇
 浅草笑友会

南原 宏治

逗子とんぼ

WITON

シロパンが肴
 関敬六

早野 九平

早野 九平

ダンク 大和

ホカダ

台東区面浅草 2-1-2 町田ビル内 浅草笑友会事務所 TEL(045)0909

浅草にはなくなるものがありますが、又、新らしく作られるものもあります。

この前々月号は、六区再生の第一号として「ロック座会館」がオープンしました。もちろん「ロック座」も新しくなり（以前、何回か入った事がありました）、全然変わって、目も眩む大照明、耳をつんざく大音響（一寸大げさですね）、まるで宇宙空間に放り出された様で、何と！ 周りを見ると女性のお客さんも多いではありませんか。

前号は、東北新幹線・上越新幹線の上野駅開業でアドバルーンが上がり、何やら浅草にとっても新しい人波が来るような気がしました。なにしろ上野から浅草は歩いて15分、地下鉄だと5分の近さなのです。一昔前は、上野駅からぞろぞろ歩いて浅草へ、又、鶯谷駅より吉原へと、皆、歩いていったものだと思います。私は、浅草の町は、ぶらぶら歩きの町になって欲しいと思うのです。

さてそこで、左ページは桜橋です。

桜橋は、隅田川にかかる橋で初めての人専用の橋なのです。華々しくパレードが行なわれ、台東区に住む三代夫婦が先頭の渡り初めがありました。何と！ その御夫婦とは、うちの通りの豆店の山本さんの御家族ではありませんか、びっくりしました。波打ち際もカミソリ堤防と言われ、人を寄せつけないものでしたが、ここでは川は人の友達のように見えました（丁度どこかの幼稚園児が川を見ながら、お弁当を広げていたのが左図です）、このあと上流へ・下流へと整備され、TVのトレンドイ・ドラマにもよく登場する様になって来たのは、皆さんもご存じでしょう。

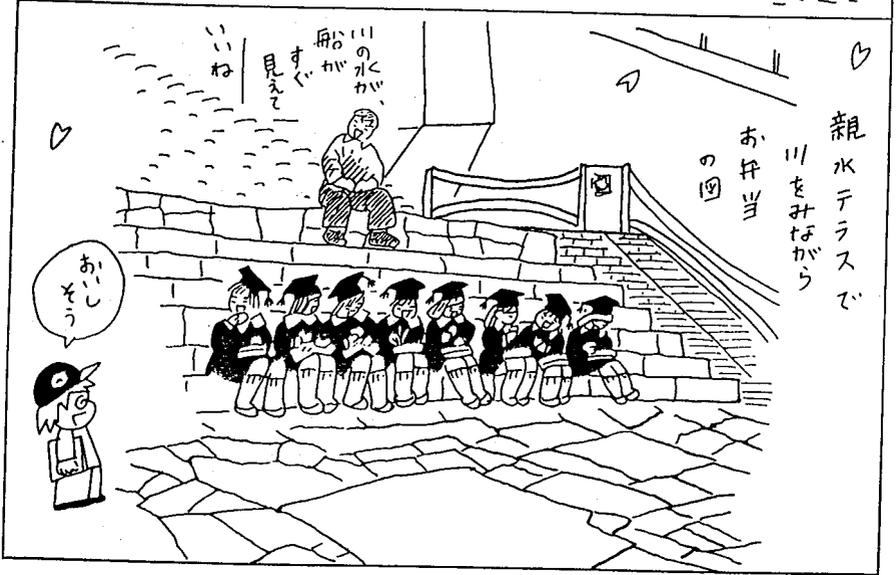
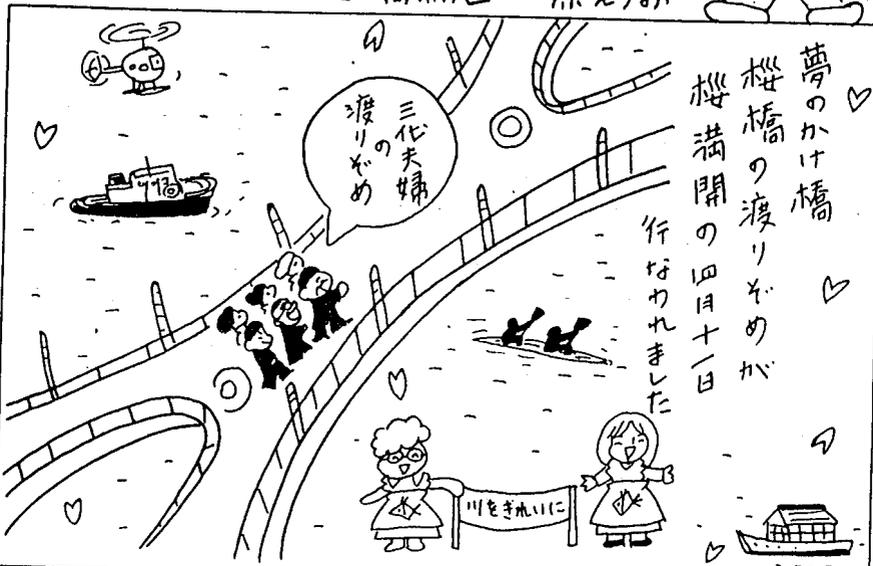
東京の繁華街で川のある町というのは珍らしいそうで、（そう言えば、新宿・渋谷・池袋・六本木・原宿などもないですね）。

浅草の今後の発展も、この大河（大げさですね）の魅力を生かす事なしではないと思うのでした。

お・お・お君 (うち.もと) 昔女歩



⑦ 川のある町 1. 桜橋開通 原えつお



「沢正」！

このお店に入る時、誰もが動物園の熊の様に رفتり来たりくするそうで、私一人がそうだったのではない事を後で知りました。なにしろ「沢正」！あの新国劇の創始者、沢田正二郎の「沢正」！なにやら、いきなり入ると無礼打ちと切られる様なかんじ、最初はおそろおそろ入りました。しかしその予想は大方当たっていたのでした。

御主人の平野さんは剣道や柔道など、道の付くもの数知れず全部足すと十九段と言う、つわものでした。

「エイ、ヤー！」勝新の座頭市の物まねで人気のあつた筑波喬一郎さんが、店内で刀を振り回します。しかし、寸止め、お見事！。

ダイナブラザースの小島宏之さんが、「地球の上にく」と、やってくれた事もあります（得した）。

広島健さんという面白い人にも良くお会いしましたっけ。

さむらい日本さん、もちろん新国劇の若手の人達（今は笠原章さんを中心に劇団「若獅子」となりました）、浅草光代劇団の面々、それから後日お世話になる多くの人々も大体このお店の暖簾をくぐった事があると言ふことでびっくりしました。

それから平野さんはよく色々な人を紹介してくれるのです。月刊「浅草」の表紙を描かれている、今村恒美先生も御主人から紹介して頂きました（この時の事をかくと長くなってしまうので、これも後でかかせて頂きます）。

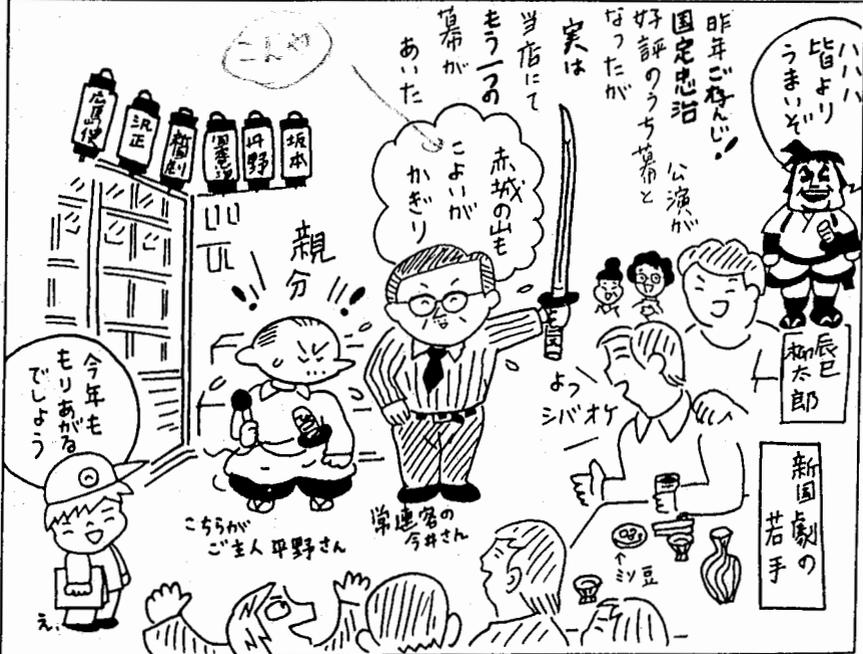
さてこの夜も、沢正劇場の幕が開きました、いつもは御主人がやるのですが、この日は御常連の今井さんの忠治です。「赤城の山も今夜が限り、縄張りを捨て、故郷を捨て……」「よー、今井」「よー、沢正」、この時は何と内側からお店の鍵を閉めてしまいます。とんでもないお店です。

歩散 (三浅草) 君 (号ち.号と) 散歩



⑧ 芝居の町

原えつお



新国劇 大正6年 況田正二郎 によりはじめられた

その「沢正」さんで、思いがけない人に会いました。あの無声映画の会の講師をやられていた丹野さんです。「あれ」「やあ君か」てな調子です。丹野さんの十八番は(流石にあの会の講師です)「蒲田行進曲です」♪恋の都、光の都、シネマの天地♪(そしてこのあとに弁士の説明が入ります)「華の Париカ、ロンドンか月が啼いたかホトトギス(こうじゃなかったかも知れません)。(ごめんなさい)。さて左ページです：

シミキンさんの映画を上映すると新聞で見つけ、早速行ってみました。何しろ、浅草の喜劇役者と言えば、喜劇の王様と言えば：エノケン、ロッパ、シミキン、と思っていました(正直言いますと、他の人の名前はあまり知りませんでした)。そのシミキンさんについても実はそれ程知らず、それで上映会へ出掛けたのです。

三木のり平さんがいました。のり平さんは、この日、上映の「シミキンの無敵競輪王」に共演しているのです。シミキンさんの体力にびっくり。もう一本は「オオ！ 市民諸君」

あんまり馬鹿くしい映画で、かえって面白い映画です(それもその筈、あの幕末太陽伝の川島雄三監督作品なのです：後で知りました)、それと、浅草の怪コメディアン、高屋朗たかやほろさんも出ているのも嬉しく思いました(これも後で知りましたが、これ程重要な役？ で出ているのは少ないのだそうです)。

上映後のステージ上では、シミキンさんの夫人の朝霧鏡子さんと弟子の、逗子とんぼさんの挨拶です(のり平さんも上りました)。

後年、この朝霧さん、とんぼさんのお二人にお世話になる日が来るとは、これも予想だにしない事でした。

「あれ」丹野さんも来ていました。

「原くん原くん、とんぼちゃんに紹介するから」と言い、丹野さんは逗子とんぼさんに紹介してくれました(どうゆう人だろう)。

浅草(うち。そと)散歩

⑨ 浅草を愛した人 第1 シキん 原えつあ



シキん…清水金一 昭和8年頃 彗星の如く現われた喜劇王

昭和60年6月16日、この日初めて今村先生にお会いしました。この次の日に長男が生まれましたので、その日をよく覚えておられるのです。丁度前ページのシミキンさんについての画を編集長の織田さんに届けた頃のお話です。沢正さんの御主人が、一つ置いた向こう側に座られていた今村先生を御紹介してくれたのです（先生のお名前は前から知っていましたし、すごく遠い所に居られる偉い方だと思っていました）。それが、「やあ！ よろしく」という感じで、しかもその日、私をもう二軒も連れて行ってくれたのです（二軒目は沢正さんから程近いところで「サト」さんという珈琲店、二軒目は言問通りを越えて、へこの時、先生は言問通りの大通りを、脱兎の様に走るのでした。信号のない所なので、もちろん私も続いて、「みちくさ」さんというお店でした。何をそのとき話したかと言うと、あまり覚えていないのですが、前ページのシミキンさんの映画の話、高屋朗さんの「朗」という字が好きなので、近々生まれる子の名前は「朗」にしようと思っております等と話す私にはほえんで下さり、「実はシミキンさんの生きている最後の姿を見たのは私なんだよ」という様な話をしてくれました（この事は後日、夫人の朝霧鏡子さんからも詳しいお話しをお聞きしました。後半の方でかかせて頂きます）。

さて左ページは、丁度、ROXビルの工事現場が皿地になったので、トキワ座・浅草松竹・東京クラブが、その勇姿を現したところです。弟が、西浅草の某ビルの屋上より写した写真を見、又、実際に見て、描いたものです（今は三階共なくなってしまうので、貴重な角度ではないかと思えます）。

「新しいものは新しく作れますが、古いものは新しく作れません」この様な建造物は観光浅草の目玉として大切だったのではないかと思うのでした。常盤座は特に、浅草の劇場で最古のものでした。

さて、浅草最初の劇場、常盤座の柿落とし興行も歌舞伎だったように、六区興行街も当初は歌舞伎が中心だったようです。第一。

江戸の後期の猿若三座の話しからして、浅草と歌舞伎との関係は、そりゃー深いもんでござんした。時は天保十三年、時の老中・水野忠邦いわゆる天保の改革でございます。風紀肅正の名の元、歌舞伎の命運、風前の灯、一吹きすればなくなる命でなもんだ、その時敢然と立った二枚目が誰であろう、我らが金さんだ（桜吹雪のあの遠山の金四郎さんです…本当ですヨ）。流石は遊び人の金さんだ「そりゃあ、庶民の心を知らなすぎらあ、せめて一ヶ所にまとめては」と言う調子で、歌舞伎は消滅の危機を乗り越え、当時の猿若町、今の浅草六丁目に中村座・市村座・守田座と並び、一大ブロードウェイになったって次第です。場所が悪い何んのつたって、芝居の魅力（第一他には無いんだから独占だ）で遠くからでもどんどん人が来ました（本当に魅力のあるものは、不便だとか何だとか関係ないのですね）てなもんだ。それから一寸ばかり時代を下って明治から昭和のはじめ、今の柳通りに宮戸座が出来ました（沢村貞子さんの、おていちゃんで有名ですな）。それから、さらに下って、浅草松屋にあった、かたばみ座。なんてえ調子。今だって、浅草公会堂で若手中心の花形歌舞伎が、毎年の初めに行なわれ好評です。

安永と言うと、江戸でもチト、どの辺の時代かわかりませんが、中ばを一寸越えた頃だそうです。客の入りが良くなるようにと中村座の座元に言われ、岡崎屋勘六さんが捻り出したのが「勘亭流」です。前述の小木曾さんより御近所に、その勘亭流の先生が住んでいると教えて頂き、その保坂先生にTELしましたら（町内会ではないですか）、教室があるから見に来なさいと言われ、行った所は氏神様（八幡さま）の社務所でした。

ホ・ホ・君 (三浅草と) 散歩

(料ていな) Xの2

⑪ 江戸が 生きて いる 町

勘亭流

原えつお



考えて

もつと 大入りに なるよう 看板をも

みしよう

安永八年というから 江戸も中ばをさすこと

(浅草猿若町 三座の二つ 中村座の 座元) より

地下鉄田原町から 口際を通りま じゅーぽんの方へ

歩い

清光寺に 岡崎屋勘六の 墓所がある

先祖化々

勘六

★

歌舞伎や 肉太い 芝居に使われる文字 丸口未のある文字 勘亭流が 生まれたのです

8/18 勘亭流教室の 勉強展が 浅草公会堂 4Fにて 見せて 頂きました

研究会

月二回

ホ一土旺

(ヒレ) 一時より四時

二十日頃の平日

(夜) 六時より九時

詳細は (八六六)〇八三四 野間口方まで

文字の批評の ホカ一ツツに 歌舞伎についてのお話もあり ビックリ

保坂光亭先生

この頃、浅草に「空き地が」どんどんなくなっているのも気になります。案外、色々な立派な施設より色々使える「空き地」があつた方が、いいんじゃないかな、なんて思うのです。例えば、今の電気館ビルの所にあつた空き地には、「蚤の市」も仲々面白かつたですし、今のロックンロックのある「空き地」には、色々なテント芝居が来て（私は、はみだし劇場というのも見ましたが）面白かつたです。この時（左ページ）SKDの人達の公演があり、（もちろん行きました）。国際劇場はお客さんが減つたとは言え、それでも結構人が来ていたのです。せめて（国際劇場の跡に出来た）ビューホテルの中に（規模を縮小したりして）劇場を残せなかつたのでしょうか。この日は「浅草ラプソディ」という題で、懐かしく、浅草の良き時代の事かと思われるレビューで、健康な彼女たちのライندگانを見ていたら、何故か泣けてくるのでした。

前ページで一寸（私は一寸ちよいとという字を一寸ちよいと使いますね、すみません）江戸弁？ を多用しましたので、口が曲がつてしまいました（一寸直して）：

さて左ページは、浅草の秋の祭りの図です（すごいでしょう）。浅草って所は、もしかしたら「世界一」祭りの多い町、なのではないでしょうか。祭りを見るのも一仕事です。「ふう」。（この頃サンバも秋だった様です）。前の区長の内山さんは「お祭り区長と言われた人だし、今の区長の飯村さんも「お祭り」を大切に行っているようです。景気低迷の昨今ですが、浅草の町は、パーっといきたいものです。ケセラセラ（最も私めはA型人間でして今一パーっと乗れないのですが）。

奥山に江戸の街並みが出来、大好評でした（日光江戸村よりずっと前からやっているのデスヨ）、しかし、期間が過ぎると、元の空き地に戻ってしまい、残念です。

さて「ポポ君の浅草散歩」は、はじめの頃「ポポ君の浅草うちそと散歩」と記しておりました。それは浅草の行事や祭りなどを支えているのは、浅草の内部の人ばかりでなく、むしろ外部の人たちがそうしてくれているからだと思ひ、少し長つたるいですが、「うちそと」にしたのでした。

例えば、ほおずき市のほおずきは、江戸川の方で栽培されているそうですし、隅田川の花火大会にしても、全国から煙火師さんが来ます。それで、そうゆう方々にも取材に行かなくてはならない、と思つたわけです。

さて、その第一回目は、北春日部の羽子板職人さんです。何故か？ この町に羽子板職人さんが多く住んでいるのだそうです。

浅草松屋（東武浅草駅）より東武線に乗つて春日部へ（昔は粕壁と言つたそうです）（昔一回、この町にある葉草園に見学に来た事があります）（今はクレヨンしんちゃんで有名ですネ）。

早速、金子組合長さんにお聞きし、昔、疎開などで浅草の羽子板職人さんが大勢つてを頼つて（なる程、春日部は桐製品が昔より有名で、羽子板の板は桐なので、そうゆう関係だったのですね）移り住まわれたのだそうです。もちろん浅草にも今も羽子板職人さんはいますし、墨田区にもいますが、ここ春日部が多いようなのです。

羽子板の命は押し絵（おしえ）です。次いで（金子組合長より連絡してもらい）京極さんのお宅へおじゃましました。京極さんは大忙しの所でしたが、快く色々教えてくれました。例えば、顔のところならそこだけ作つているという人もいれば、全てははじめから終りまで作る、という人もいますか（京極さんは後者でした）です。

羽子板市は、毎年十二月の十七く九日行なわれます。こうした外の人達のお陰であの華やかな市が続けられているのです。京極さんのお店は「琴山」という屋号のお店だそうでした。

左ページは、ポポ君の…の中でも私が一番好きな画です。何と！ 私は中学生の時に天文部にいたのです（最も一年だけで、部長の星さんという人が目盛りを合わせてくれ「見て下さい、これが土星です。輪がきれいでしょう」「木星です。赤いところを大赤点と言ひ、縞模様もきれいでしょう」等と解説してくれ、私はレンズを覗くのです。恥かしながら、天体望遠鏡の操作もよくわかりません）（星という名字は会津の方に多い苗字だそうで、多分あの人もその辺の出身だったのだと思います）。

その程度の天文ファンですが、このハレー彗星の時は胸が踊りました。

石垣島でハレー彗星を観ると言うツアーがあり、家族で申し込みました（昼間は島内観光や西表島へ行くツアーで、夜は夜空の観測と言うハードなもので、一日の睡眠時間はなんと！ 三時間、眠い目を堪えつつ、特に西表島へ行った時は海上が大シケで船はまるで木の葉の様、船員さんから全ての乗客にビニール袋が支給されます。それでも何んとか辿り着いたらジャングルのぬかるみの中を歩きます「ああすごかった」でも又行きたいです）。それで肝心のハレー彗星ですが、三夜共曇りで「コケッコ」近所のにわとりの声を聞き宿に帰り昼のツアーの時間まで爆睡です。しかしその後、こちらでも見られるかも知れないという話があり、漫画の仲間で（今、日本画家で）天文ファン（こちらでは相当本格派です）の鶴田さんに来てもらひ、北沢先生（弟の吉和先生共にもお世話になつています）に車に乗せてもらひ「勝浦にて」見業！ ハレー彗星（らしきもの）を見る事が出来ました。

さて左図は、江戸時代その天文のメッカが何と！ 浅草（蔵前ですが）にあつたというお話です。

その名も「浅草司天台」。

江戸時代の人はどの様に夜空を見上げ、どの様に星と星とを―結んだのでしょうか。

ホホ君(浅草そと)散歩



⑮ 浅草司天台

原えつお



ハレー彗星の話で
もちきりの昨今ですが
江戸時代 天文のツカが
浅草にあったという話は
ご存じでしょうか

麻呂をふる
ため天体の
観測をした
のです

幕府の
役人が
天文方を
言います

これは
ウツです
当時は
肉眼で
見ました

浅草司天台
天明二年の
(一七八二年)
です

ロマン
だな

「元犬」というお話しは、蔵前神社の前にいた白犬が変身し、人間になってしまおうのですが、元の犬のくせが直らず、片足をあげて小便をしてしまうとか他愛のないお話しなのですが、アメリカさんにはこれがお気に召さなかった様で禁止。その前にも、時局に合わぬということで「明烏」など禁止。

落語って随分、そうゆう時代があったのですね、ちつとも知りませんでした。

えー、私は元々落語が好きでして、一番初め、なりたかった職業は「落語家」です。

ラジオで「演芸番組」のはしごをしつつ（その頃はこうした番組が多かったです）勉強？をしっていたのです（小学生の頃）、志ん生さん、文楽さん、金馬さん、円生さん、小さんさんも良かったけれど、一番のお気に入りは可楽さんです。片方の口端が一寸つり上るようなしゃべり方が心地良いのでした。

それに、お風呂に行くとき可楽さんの口調のまねをする小父さんが居たりしました。（中学頃になると）落語研究会を何人かで作って：（馬目くんという芸達者がいました）。先生の教壇の上に座蒲団を敷いて、皆の前で（もちろん先生も、先生は鹿江先生という国語の先生でした）、私の得意？ な題目は、「らくだの馬さん」と「たのきゆう」でしたが、上手とは言えず、トチったところをいつも大笑いされました（特に、鹿江先生の大笑いが、まだ忘れられません）。笑う事って素晴らしい事ですね。

左ページは「浅草演芸ホール」です。この頃、みのもんたさんの司会で「お笑い名人会」がありました。

この記事を、みのもんたさんにあげようと思って（この記事の載った「月刊・浅草」を持って出口（入口も同じですが）で待っていますと、ＴＶ局の人達と華やかにやってきました。本をあげると「僕も有名になったかな」等と言って喜んでくれました。みのもんたさん又、こういう番組の司会もして下さい。

お笑い君(浅草より)散歩



⑬ 笑いの町2、はなし塚 原えつお



この年のお正月は、NHKのテレビで「エノケン」さんの映画をやっていました「ちやつきり金太」は、前にも見た事がありました。「孫悟空」は初めて見ました。

流石に、お猿の役で注目を初めて受けた人です。それに八戒の岸井明さんがチャイミング（一寸変な表現ですか）で、悪役が「あのねのオツサン」で又、面白いものでした。

残念ながら、実際の舞台は見れませんでした（生まれていないので）、今はこうした映画がビデオ化されているので嬉しいのです。

この年の二月に左図の様にエノケンさんの追悼映画祭とチャリティーオークションがあり「歌うエノケン捕物帳」と「極楽夫婦」が上映されました。どちらも笠置シズ子さんの物凄い歌と、それに負けないエノケンさんの歌唱力で、物凄いものでした。

浅草公会堂の階段を降りて来ますと（一階は満杯で入れなかったのです）。前にどこかで会った少し背の高い人と会ったのです。

その人は笑友会の会合の時、名刺をもらった人で、村尾さんという人でした（名刺には有隣堂へ横浜の書店」と書いてありました。実は、この日の映画はこの人がもって来たそうでした（後日、逗子とんぼさんもこの人をよく知っているそうでした）。

さて、この映画には、神田正輝さんのお母さんの旭輝子さんが出ていました（藤山一郎さんの恋人役で）美しい！（何しろもう一組の奥さんが笠置シズ子さんですから余計目立ちます：失礼）。

この頃、今村先生とはよく「沢正」さんでお会いする様になっていたのですが、この旭輝子さんと入って来られたのです。「おおー」、周りから、どよめきと拍手が起きたのでした。

寿三丁目の宗圓寺、エノケンさんの活躍した六区からは、やや離れた所に「エノケンさんと仲間達の碑」があります。この事につきましては次ページへ。つづきます。

「吉村平吉先生」には後日、浅草文庫講演会にてお世話になり、その後も色々教えて頂いており、その時お聞きしたのですが：

エノケン劇団の中に、佐藤文雄さんという人がいたそうです（皆は、ぶんちゃんと言っていたそうです。…この人に連れられ吉村先生はエノケン劇団の文芸部に入ったのだそうです）。それで、この方が何と！ 寿町の宗圓寺さんの息子さんと、前ページの碑がそこに建つ事になったのだそうです。又、その並びに素朴な感じの（おおき巨大な）お地藏さんが並んでいます。これも佐藤さんの手作りなのだそうでした。（吉村先生についても書き出すと長くなりますので、ここはこの辺で）。

さて、又、又

今村恒美先生についてのお話します。

「3月31日は」先生のお誕生日で、いつも浅草松屋・東武の北口のすぐそばの「焼かつ・桃タロー」さんで、誕生会が催され、私も誘って頂きました。

なにしろ、つき合いの多い先生ですから、名の知られた芸人さん達がウヨウヨなので、私はミーハー気分です。（その後、何回も出席させて頂いたので、どの会の時かわからなくなってしまうましたが…小さん師匠・内海桂子・好江さん・浅香光代さん・石井均さん・菊地章子さん・玉川福太郎さん等々と同席出来、得をしました。先生有難うございました）。（桃タローさんはその後、私の漫画の仲間の会もやらせて頂いたり、お世話になりました）。

さてその席にて今村先生が、「原君、皆さんに配りなさい」と言われて恥ずかしくもなく配らせて頂いたのが、左図の載った、月刊「浅草」です（丁度月末で配本日だったのです）。

この頃、先生はその優しい顔で「段々良く鳴る、法華の太鼓だネ」と言って励ましてくれましたが、時々その眼鏡の奥の目が鋭く光るのに、びっくりした事もありました。

ポポ君(浅草寺と)散歩



⑬ 飛不動 原えつお

昨年の日航機事故の記憶、いまだ十のやうな昨今、私も日航機に乗りこむことになり、航空安全の、お守りが有ると聞き、少し足を伸ばして、

① 三丁目の三三だ、
 七世不動、正寶院、
 やて来ました、
 まじ、

② 当寺の住職が、
 奈良の大峰山に、
 本尊を安置、
 修行のとき、
 一夜にして、
 江戸まで、
 飛んできた、
 来うれ、
 衛利益を、
 授けられた、
 二とより、
 荒れ、
 おります、
 近藤禎良、
 御佐職、

③ 御祈禱も、
 いただき、
 ました、

④ 日本橋と権張の、
 古高麗屋に分院が、
 有ると言うので、
 行って見ました、
 なるほど、
 JAL AMA、
 航空安全、
 のお札、

⑤ よし、
 二れど、
 大丈夫だ、
 航空安全、
 のお札、

花やしきは一時ひどい有り様でした。よく通り抜けましたが（その頃は入場無料でした）お客の代わりにルンペンさんがチラホラ居てつり堀りの水槽の中には、アメリカザリガニとガマガエルが重なり合つて（最もこれは今もいると面白いのですが）淋しい園内を見つめておりました。

それが一転して（さらに今は、さらにリニューアルされ）今の様な若者や家族連れの人に楽しめる夢のスペースになったのです。（高井園長さんはじめ、皆さんの実行力に対し、敬意を思うものです）。

先輩方にお聞きしたのですが、六区も良かったけれど、花やしきだけでもすごく楽しい所だった事です。動物（象や虎など）も居た事もあるのですね。山雀（やまがら）の芸：これは運良く見た事があります。可愛い山雀（やまがら）（大きさは雀すずめくらい）が、おみくじを運んできてくれます。活（いき）人形：これを復活させたらどうですか、と高井園長に話しましたが「動かないとね」という答えでした。当時は生きている様な人形でも今は確かに動かないと駄目でしょうね。その他「ダーク一座のあやり」というのが人気があったそうですが、どんなものだったのでしょうか。

花やしきは東娯（とうご）（東京娯楽）という会社（遊園地の乗り物など作っている）の経営で、そのショールームも兼ねているというお話でした（後楽園遊園地も、東娯製だそうでした）。

今あるものでは私は「ハイテク大道芸」というのがお気に入りです。今までも浅草らしいものがありました。今後共こうゆう物を作つて下さると嬉しいですね。

観音様に近い方の入り口の所に、回転木馬があります。この回転木馬がクルクル回るのを見てると、幼い日の楽しい思い出や、自分の生まれるずっと前の沸き立つ様な六区の喧噪けんそうが浮かんでくる様な気がするのです。

お父さん(うちのと)散女歩

① ヤングと家族づれの町 1 草花やしき 原えつお



花やしき(花屋敷と言いました)は
 昭和六年(八五三)と言いますから
 黒船の来た年でございます
 作庭の名人(向原)の百花園を手かけた
 森田大三郎により開園されました

その後 ヤングと家族づれで楽しめる
 遊園地となり、また新しくなったのです

仁丹塔がなくなる事になりました。

国際劇場がなくなり、松竹演芸場がなくなり、又、浅草の名物がなくなる事になり、特に「仁丹塔」は家業故かそれも又残念で何とか存続がならないのか、森下仁丹の東京本社（青山にありました）に行つて、話を聞く事にしました。

ご存じの通り仁丹塔は明治に出来た「りようんかく凌雲閣」（通称十二階）をモデルに造られました。十二階は五重の塔の工事現場に人を入れたら大盛況で次いで、人工富士山と続き、又、十二階へとなつていくのですが（人は高い所が好きなのですね）。大正の関東大地震でポッキリとまっ二つに壊れました。この仁丹塔は昭和29年に造られた、と言うのですから、そう古く？ ないのですね（私が物心ついた時には、すでにありませんでしたので、もつとずうつと古い建物だと思つていました）

国際劇場の塔屋からサーチライトが夜に回ります。そして仁丹塔からもう一つ、二つの光が寝ている部屋の中にもさし込みます。戦前でなくても昭和30年代はまだ浅草は沸き立っていたのです。

仁丹塔は、耐震上の理由という事で遂になくなりました。鳶とびの人が大きなアリの様に壁面に群がっております。壊すノミの音が聞こえてきます。大きなクレーンで塔を引きちぎる様に撤去したそうですが、それは見に行きませんでした。

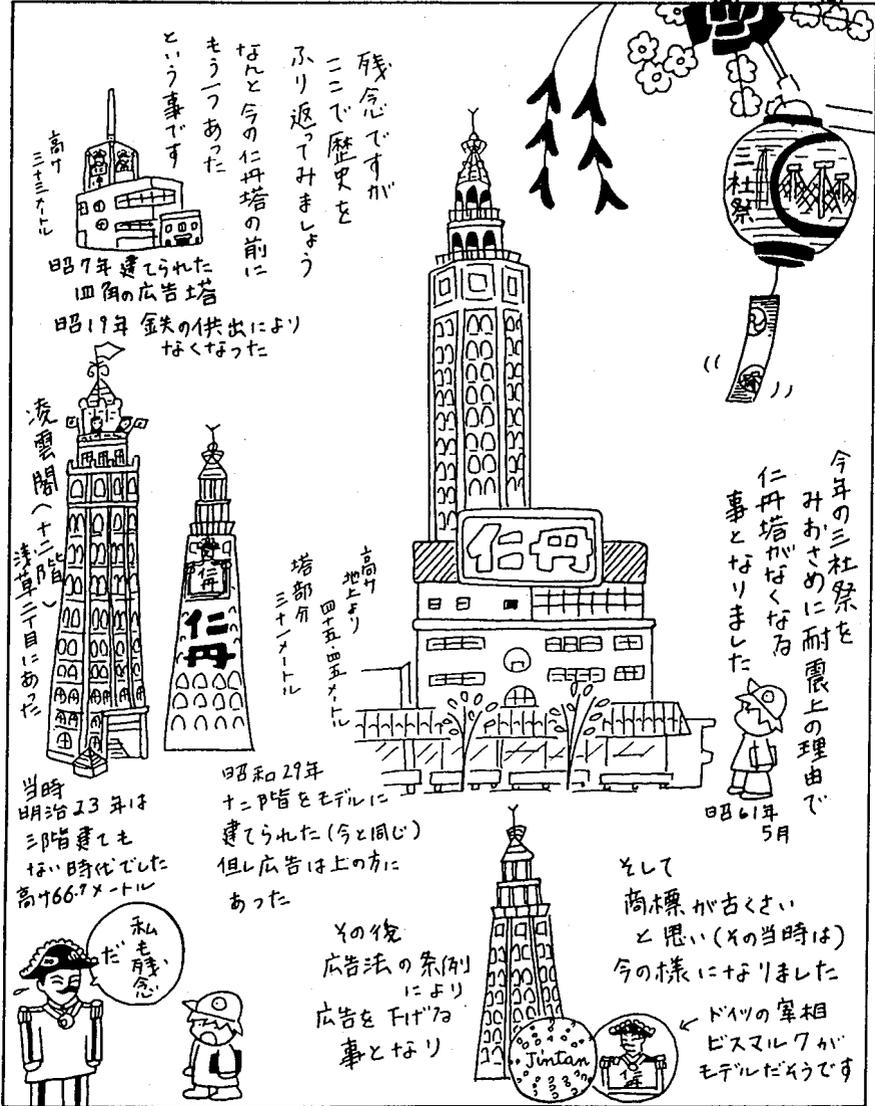
仁丹塔がなくなつてしばらくした頃、森下仁丹の社長が死にました。何か、耐震上の理由だけではない様と思いました。

後日、奥山に「江戸・明治・大正村」がいき、さらに小さな仁丹塔が出来ました（しかし、それは素晴らしいもので、あとで画に出てきますので見て下さい）。奥山風景は期日が過ぎると又、何もなくなりませす。何とか、又「仁丹塔」を復活させたいものと強く思つています。

三草君(うさ.そと)散女歩

② 仁丹塔物語

原えつお



残念ですが
二二で歴史を
ふり返ってみましょう
ほんと今の仁丹塔の前に
もう一つあった
という事です
昭7年建てられた
四角の広告塔
昭19年 金矢の供出により
なくなりました

浅草三丁目
十二階
三十一メートル

地上より
四十五五メートル
塔部分
三十一メートル

当時
明治23年は
三階建ても
ない時代でした
高166メートル

昭和29年
十二階をモデルに
建てられた(今と同じ)
但し広告はその上
にあった

今年の三社祭を
みおさめに耐震上の理由で
仁丹塔がなくなる
事となりました
昭和61年
5月

そして
商標が古くさい
と思い(その当時は)
今の様になりました

その後
広告法の条例
により
広告を下げた
事となり

← ドイツの宰相
ビスマルクが
モデルだと言うです



「さあて！ お立ちあい」

雷おこしの常盤堂の本社が雷5656会館になりました。

切角、浅草へ来られても「浅草らしい」ものが見られない人の為、ときわホールでは、若山社中の御神楽や日本舞踊、大道芸の、坂野比呂志さんも大熱演です。

この奈良の大仏さんと浅草の観音さまの会うというお話は仲々洒落しゃれているではありませんか。

今では、正月は15日まで（毎年）浅香光代公演で始まり演芸大会など行なわれております。後日、漫画にもかかせて頂きましたが（後で出て来ます）「豆子とんぼ劇団」も、ここで行なわれました。

さて、この頃、文学座の三奇人の一人と言われた北見治一（はるかず）さんが、我家の近所へ引越して来ました。初めは私の父が、歯痛で困っていた北見さんに、近所の歯医者さんを紹介したのです。それから我家によく来てくれる様になり、ある日それが「沢正」さんで会ってしまっただけです（いい人なのですが、気難しいところがあるので、一寸大変でした。（お寿司屋さんに行きますと）この前、天むすつて食べたらずごく旨かった。この店でもメニューに入れたら」と親切？ にアドバイスします。それで次にその店の暖簾のれんをくぐり「あれまだメニューに入れてないの」と怒り心頭です（本職の役者の方も折角仮面ライダーブラックの悪役で出たので、うちの子達が喜んでいたので、製作者と合わないと言つて降りてしまいます）（NHKの「大平記」の時もそうでした）（しかし「水戸黄門」に出た時は確か四日市の方が舞台のお話だったと思いますが、地元の人に方言を教わって演じます。テレビを見たら、一人だけ四日市弁？ を使っていました。流石さすがです）風の噂では、北見さんは亡くなられたそうですが、もし生きておられたら、すみません。北見さんのお話しは、又。

さて、浅草の「うち」の方が続いたのでそろそろ「そと」の方を思って、ほおずき市の風鈴の篠原さんのお宅へおじゃましました。

篠原さんのお宅（篠原風鈴製造本舗）は、江戸川区の南篠崎という所にあつて、この頃は地下鉄も伸びていなく一寸大変でした。

近くの鹿骨しかほねという地区で「ほおずき市」のほおずきも栽培されているそうで、この辺は、ほおずき市と深い関係のある所なのです。

実は家族と来ました（北春日部の羽子板職人さんの時もそうでした）（なにしろ滅多に見せてもらえないと思つて、家族も連れてきたのです）。

篠原さんのお宅は儀治よしはるさん、奥さん、長男さん夫婦、弟さん、つまり一家の皆さんで風鈴を作つていて、快く招えてくれました。

他にも若い女性達の見学者もいて「きゃあきゃあ」華やいだ気分。天気も快晴。

よく興奮のるつぽと言いますが、左図の（右上の）穴の所がるつぽです。中に炎が渦巻いております。ここにガラス棒を入れ、息を吹き入れ風鈴は作られるのです。仲々難しいものですね。やらせて頂きましたがふにやあとふくらみすぎてしまいます。それでも何んとか、がまんどころのものを篠原さんが「ポン」とたたくとふちの所がギザギザになつて、ハイ！ 一丁出来上がりです。このギザギザとガラスの厚みが一つづつ違つていて、えも言われぬ良い音が出るのですね（皆さん！ ほおずき市では良く見比べて下さい。今は外国産が多いんだから、本物は「江戸川産」なんだから。

そして絵付けは奥さん方の仕事です。絵はガラス裏側から描きます（これも難しい）。

先程の女の子たちが又「きゃあきゃあ」言っています。風鈴が、さわやかな風に吹かれ快い音色をたてていました。

お太君 (浅草) 散女歩



22 江戸が生きている町 2 江戸風鈴

原えつあ



江戸川と南の篠崎の

江戸風鈴作りの

篠原風鈴製造本舗

におじやま

しま
した

竹原儀治さん



まらせて頂き

まじ
たが

ありやあ

大失敗
びす

フニャ

色は内側から塗るので

余談

ほおおき市に
いっけた風鈴は
戦前は

戦後にぼろ

(大丸
中丸
小丸
とまろうろう)

ぼった
やうです

竹原さんの作品は

浅草松屋の6階の江戸職人
と1階の
食器売場にもあります

音色の良さのひみつ

ガラスの厚さ

縁のガガガ

手作りだから
うっつ音が違う

この左ページは珍しく気難しがり屋の（失礼）北見さんがほめてくれたものです。本当に珍しい事です。

ついでに（又、又、失礼）北見さんの事について、もう一寸記させて頂きたいと思うのです。

北見さんは、西浅草三丁目のワンルームマンションに入り、そこを拠点に毎日、浅草を探索に出掛けるのです。時々、道案内役に私も呼ばれました。北斎の墓へ松平西福寺へ。

平賀源内のところに（徒歩で）北見さんはその細い身体に似あわず意外と健脚です。

浅草らしい？ おいしい食べ物屋を見つけに南へ、北へ、西へ、それは良いのですが、なにしろその正直？ な性格から色々な人にぶち当たります。

遂に！ 「沢正」さんからしめ出されてしまいました（私は居合わせなかったのですが）。何んでもカラオケを唄っている人をけなしたのだそうです。「下手だ」と、（その位やりそうな事です）それで別のお客さんに文字通りつまみ出されたのだそうです。北見さんが気に入った（と言うかお店の方が良くしてくれたと言うか）お店は何軒くらいあるのでしょうか。私の知っている限りでは、今思いつくすとしたら：住まいの前の「やぶ茂」さんと観音裏の「グランド」さんでしょうか。

こんな事もありました：「鍋茶屋です、北見さんが、おたくの名前を呼んでいます」お店の人のOSです。行つてみるとぐでんぐでんに酔つて完全にダウン、もう眠っています。「北見さん、原さん来ましたよ」とお店の人が言うと、それがかろうじて起き上がったのですが「おつ原さんよく来てくれた」と又、飲み出すのです（私も）。

「もう看板なんですが」と言うので北見さんをワンルームマンションまでかついで行きました。北見さんのお話しばかりでつい、地下鉄のお話しに乗りそこないました。

歩 女 散 (馬草と) 君 (浅草) 十 十



② 浅草馬車線銀座地下金

「知っていますか、日本初めての地下鉄は昭和二年浅草と上野間を走らしてしまっただけの時見れば、どこから地下鉄を入れるかわかったのに」

「また生れてはいでしょ」

「どうですかね、お父さんに頼んであげれば良かったですよ」

「馬鹿言うんじゃないや、ありませんよ」

「どうやって頼むんです」

「それはもう、当時はすごい人出だったんですよ」

「それやうでしよう、新幹線も無し、カゴや大行列が通っていた時代ですからね」

「そんなに古くは有りませぬよ」

「一目見よう、と行列が出来てね、それが浅草から上野まで続いている」

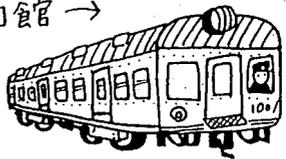
「……それじゃあ、乗る必要が……ない……」

銀座線浅草駅にはその古き名残が有ります



へえ！
これが
早車

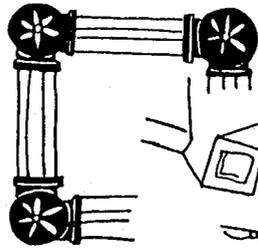
地下鉄博物館 →
(原面線
葛西駅)
に有ります



浅草馬車時刻表
(南門そば)入口



その下に有る
竜(と言うよりドラゴン)
の周りも



天井の
蛍光灯の飾り

田原町駅の芸能紋は知って
いましたか
三にも
有りました

芸能紋色々



ホーム
両側に
有ります